

事例

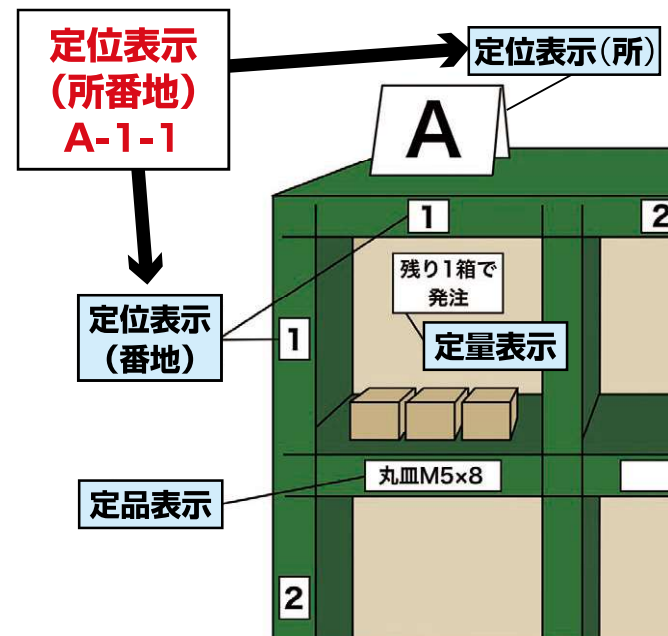
「発注点管理」は在庫を切らさない工夫のひとつだ。
コーヒーマシンに備え付けの紙コップ。黄色いラインのところまで使ったら「ここより少なくなったら紙コップを補充してください」とルール化し、表示している。



事例：備前化成株式会社

定位 定品 定量
を表示

3定表示



④ 「3定」を現場に表示

「定位」→所番地

「定品」→置くモノ

「定量」→置く量や数

が決まったら現場に表示する。



ちなみに「所番地」、たとえば「A-1-1」などを「棚品目表示」と呼ぶ。

「モノの名」、たとえば「丸皿M5x8」などを「モノ品目表示」と呼ぶ。

適切な量の表示は「定量表示」だ。



これは、あたかも住宅地の民家に「所番地付きのプレート」とそこに暮らす住人の名を書いた「表札」を付けるようなもの。



ここで気をつけねばならないのは消耗品の「定量」表示だ。

ネジ類や、コピー用紙などの消耗品は使うたびに数量が減り、補充すれば増える。

「いつでも必要量だけが定位置にある」状態にしておくためには、

- ・適切な在庫量がある
- ・在庫が切れている
- ・あるいは
- ・在庫切れ間近である
- ・在庫が過剰である

ことが誰にでも判断できる「表示」が求められている。



さらに一歩進んで――

「定量」が表示されているにもかかわらず、うっかり在庫を切らしたり、在庫が過剰であるようなミスがないよう、上の「発注点管理」ははじめさまざまな工夫、改善がなされている。